

<対策のポイント>

世界的な課題として国際的な取組の気運が高まっている「限りある水資源の有効利用（かんがい効率・水生産性の向上）」の実現に向け、国連食糧農業機関（FAO）に我が国の専門家を派遣し、我が国の優れた知見・経験・技術の活用及び普及を促進します。

<政策目標>

我が国の知見・技術を活用した、効率的な水利用・水管理に関する分析及び対策手法を普及（3つ以上の国際会議等で報告【平成33年度まで】）

<事業の内容>

国際連合食糧農業機関（FAO）は、持続可能な開発目標（SDGs）の目標6.4「2030年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善」におけるモニタリング指標の担当国際機関であり、水利用効率改善に関する情報・議論が集中する当該機関に専門家を派遣し、下記の取組を行います。

- ① 水利用効率に関して、FAO、水関係国際機関、国際会議等において情報収集を行います。
- ② アジア・アフリカ地域における、かんがい分野の水利用・水管理状況、水利用効率、かんがい効率向上における課題・ニーズの調査及び分析を行います。
- ③ 同地域の水田農業における水利用の特殊性を考慮した、かんがい効率・水生産性向上に向けた方策を検討します。
- ④ 他の国際機関・ネットワーク（国際かんがい排水委員会（ICID）や国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）等）とも連携し、効率的な水利用・水管理に係る知見の普及を図ります。

〔事業実施期間：平成31年度～平成33年度〕

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】

- (1) 大臣官房海外投資・協力グループ（03-3502-5913）
- (2) 農村振興局設計課海外土地改良技術室（03-3595-6339）

<事業イメージ>

背景・現状

- 2050年における世界人口を養うには、食料全体の生産量を40年間で60%増やすことが必要だが、世界の耕地面積は横ばいの状態。
- 世界の水需要は製造業、生活用水等の需要増によりひっ迫しており、かんがい用水を増やす余地はほとんど無い。

➡ 土地生産性・水生産性の向上が必要

SDGsターゲット6.4

- 全セクターにおける水の利用効率の大幅な改善を掲げる
- FAOがモニタリング指標の担当機関

➤ 指標6.4.1：水利用効率
全ての経済活動による水利用を対象とし、経年変化を監視

我が国の専門家を派遣し、水議論やかんがい効率・水生産性向上のための方策に、我が国の知見・技術等を活用



期待される効果

- 我が国を含めた世界の食料安全保障及び途上国の経済成長へ貢献します。
- 国際的水議論に関する情報を収集するとともに、我が国の効率的な水管理に係るソフトインフラ（参加型水管理や水管理システム等）に係る知見の普及を通じて、本邦技術の海外展開の促進に貢献します。



水管理の会合



国際会議への参画